

＜研究成果の紹介＞

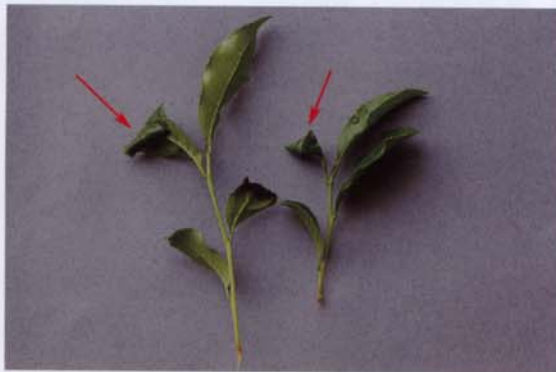
チャノホソガ三角巻葉混入割合と荒茶品質との関係

農業研究所 茶業研究室

1. 成果の内容

チャノホソガはチャの新芽を加害し、被害芽の三角巻葉（図1）の混入は荒茶品質を低下させることが知られています。チャノホソガによる被害を予測するためには、被害程度と荒茶品質の関係性を明らかにする必要があります。そこで、「やぶきた」の二番茶について三角巻葉の混入が荒茶品質に与える影響について明らかにしました。

健全なチャ芽にチャノホソガの被害葉（三角巻葉）を人為的に追加して荒茶に加工し、品質を調べた結果、三角巻葉の重さの割合が2%を超えると品質が悪くなることがわかりました（図2）。この荒茶をお湯に浸出したときの湯の色（水色、すいしょく、）は黒く又は赤くなる



チャノホソガの被害葉（三角巻葉、矢印）



図3 チャノホソガ被害葉の混入割合と荒茶水色との関係

図中の数字は健全茶芽に対する被害葉の重量割合

ことが明らかになりました（図3）。

チャノホソガ三角巻葉の重さの割合が2%になるときの茶園での三角巻葉の量は、チャ摘採面1mあたり80枚に相当し（図4）、また、チャ新芽100芽での三角巻葉の数は4枚に相当します。

2. 技術の適用効果と適用範囲

チャノホソガの防除は二番茶新芽の生育期に重要ですが、今回の成果を防除要否の判断に活用することができます。

3. 普及・利用上の問題点

チャノホソガ発生予察には性フェロモントラップが利用されていますが、現在、性フェロモントラップ誘引数と被害程度との関係、また、気温とチャノホソガ発生時期との関係についても研究を進めています。

（磯部 宏治）

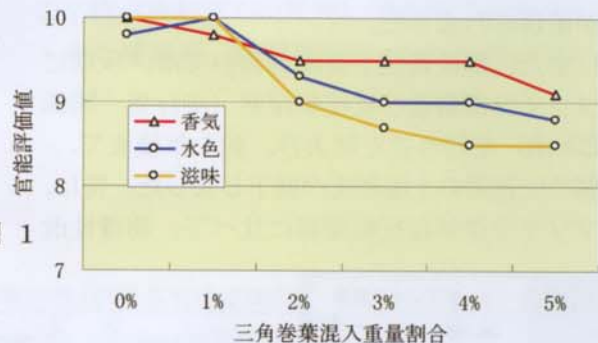


図1

図2 チャノホソガ被害葉混入割合と荒茶品質との関係

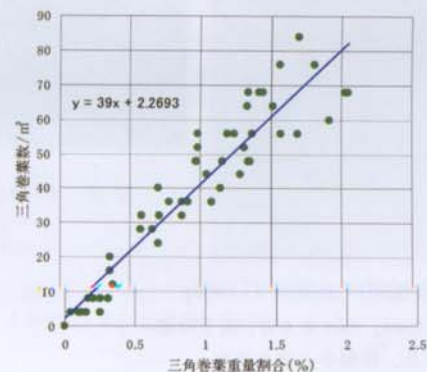


図4 三角巻葉重量割合と摘採面あたり三角巻葉数の関係